

平成 18 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
 森林生態系保全再生手法及びニホンジカ保護管理手法検討ワーキンググループ
 議事概要

◆日 時 平成 18 年 6 月 1 日 (木) 12 : 15 ~ 13 : 30

◆場 所 大台ヶ原ビジターセンター

◆出席者

< 委 員 >

| | |
|--------|------------------------------|
| 佐久間 大輔 | 大阪市立自然史博物館 学芸員 |
| 高橋 裕史 | 独立行政法人森林総合研究所関西支所生物多様性研究グループ |
| 田村 義彦 | 大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長 |
| 鳥居 春己 | 奈良教育大学教育学部附属自然環境教育センター 助教授 |
| 日野 輝明 | 独立行政法人森林総合研究所関西支所野生鳥獣類管理チーム長 |
| 日比 伸子 | 橿原市昆虫館 学芸員 |
| 松井 淳 | 奈良教育大学 教授 |
| 村上 興正 | 元京都大学 講師 |

(以上敬称略)

< 事務局 >

| | |
|----------------|-----------------|
| 近畿地方環境事務所 | 小沢 晴司 統括自然保護企画官 |
| | 西野 雄一 |
| | 石川 拓哉 |
| 吉野自然保護官事務所 | 田中 綾子 |
| (財) 自然環境研究センター | 永津 雅人 上席研究員 |
| | 荒木 良太 |
| (株) 環境総合テクノス | 木村 博司 部長 |
| | 樋口 高志 |
| | 保延 香代 |

◆議 事

- (1) 個体数調整について
- (2) 防鹿柵及びラス巻きの設置について
- (3) その他

◆議事概要

○委員からの主な意見等

(個体数調整について)

- ・ 年々捕獲効率が低下している。今年度も目標頭数(78頭)を大きく下回るようなことがあれば、銃器(麻醉銃を除く)による捕獲を実施するべきである。
 - ・ 洞爺湖の中島における大型捕獲柵は、1冬あたり3~5tの餌付けで誘引して実施し、なんとか50頭を捕獲することができた。大台ヶ原においては、主食であるミヤコザサが繁茂しているとともに、シカの行動範囲は狭く定着性が強いなど、大型捕獲柵による捕獲条件としてマイナス要素が認められる。十分な誘引効果を得ることができない限り、大型捕獲柵による捕獲頭数は見込むことができないと考える。
 - ・ 大型捕獲柵については、事務局案では正木峠で実施することになっているが、正木峠は地形条件が悪く、追い込む際の支障になる。牛石ヶ原にはシカが多くみられ、また地形条件も良いので、牛石ヶ原でシカの逃げる方向に柵を設置した方が良いのではないかと。
 - ・ 正木峠、牛石ヶ原のどちらで大型捕獲柵を実施するべきか、早急に事前調査を行うべきである。その結果を受けて、実施箇所を決定するべきである。
 - ・ 大型捕獲柵の実施時期は、餌付けによる誘引効果が大きくなる初冬(12月上旬頃)に設定するべきである。
 - ・ 事前調査では誘引効果も見ることになるが、調査実施時期(6月)と捕獲実施時期(12月)では誘引効果に違いあることにも注意が必要である。
 - ・ 牛石ヶ原で大型捕獲柵による捕獲を実施する場合、上北山村有林内での実施となり、村と協働してシカの保護管理を行う良い機会になり得るのではないかと。
 - ・ アルパインキャプチャーは、林縁に近づけて設置した方が捕獲効率は向上するのではないかと。
 - ・ 捕獲については、保護管理計画における捕獲頭数を達成できていない状況であり、捕獲できなかった個体による増加分も考慮に入れて、来年度からの捕獲目標頭数を設定するべきである。
- ⇒ [事務局] 大型捕獲柵による捕獲については、専門家に協力いただき早急に事前調査を行い、実施箇所を決定したい。また、銃器(麻醉銃を除く)による捕獲や捕獲頭数の設定等については、今年度、ニホンジカ保護管理計画の見直しのためのWG等で検討いただきたい。

(防鹿柵の設置について)

- ・ 地点Cは、大台ヶ原では数少ないミズゴケ類が生育する湿地であり、コケ類、シダ類など大台ヶ原において、このエリアにしか生育していない植物がある。柵で囲うことによってシカの食圧がなくなると、スゲ類などの草本が侵入して乾燥化が進み、湿地が消失するおそれがある。多様性の保全の観点から、柵は設置するべきではない。
- ・ 地点Eは、柵の設置による苔の変化をモニタリングしたいと考えている(1m×1mの方形区を設定)。

- ・ パッチディフェンス柵については、設置目的や方針をもう少し明確にするべきであり、各専門家に意見を聞いて十分に検討してほしい。また柵の材料として、地元の木材を使用してはどうか。
 - ・ パッチディフェンス柵の柵高は、面積が小規模なためシカが飛び越える恐れはなく、従来より抑制できるのではないかと考えられる（h=2m 程度）。また材料についても、間伐材を使用してコストを落としてはどうか。
- ⇒ [事務局] パッチディフェンス柵の目的や方針については、自然再生の方向性に関する重要な事項であり、今年度の WG 等で検討いただきたい。また柵の材料や規模については、従来と同様に地元木材と FRP を使い分けるとともに、維持管理の面なども考慮に入れて検討したい。

(ラス巻きについて)

- ・ ラスの材質については、ラスと接着している部分の樹幹に苔がみられなくなっており、ラスの金属イオンが影響を与えていると考えられるため、今年度の苔調査で影響を見ていきたい。また、防鹿柵によって囲われた範囲のラスは撤去すべきである。
 - ・ 樹木に食い込んでいるラスについては、張替えするなど適切な処置を行うべきである。また、倒木に残っているラスも撤去すべきである。
- ⇒ [事務局] ラスの材質や巻き方等については、既往の資料を整理したうえで、今年度の検討事項としたい。また、防鹿柵内及び倒木に残存しているラスについては撤去する。

[文責：近畿地方環境事務所]